

2006年7月24日

CRTガラス生産能力の削減について

旭硝子株式会社

旭硝子株式会社（本社：東京、社長：門松正宏）は、2005年から3年間の中期経営計画“JIKKO-2007”の重点施策の1つとしてCRTガラス事業の収益改善を掲げ、当事業の生産体制再編等を検討してきましたが、今般、海外のCRTガラス生産拠点において、製造窯の一部を本年9月末までに順次停止することを決定しました。

CRTガラスの需要は、パソコン用、テレビ用ともにTFT液晶等へのシフトが急速に進んでいる影響を受け、2004年度の約264百万本から2006年度の約200百万本へと減少する見込みであり、2005年からは販売数量減少に加え、販売価格下落、原燃材料費高騰などにより、当社のCRT事業の採算は急激に悪化しています。

当社は、これまでもCRTガラスの需要減少に伴い、米国や日本国内からの生産撤退など諸施策を実行してきましたが、今後もCRTガラス需要の減少が予想されることから、今般、さらに生産体制の再編を実施することとしました。今回の再編では、インドネシア（ビデオ・ディスプレイ・グラス・インドネシア社、ファンネル製造窯：1基）及び台湾（パシフィックグラス社、パネル製造窯：1基）での生産を全面的に停止するとともに、その他の拠点においても製造窯を合計4基停止し、当社のCRTガラス生産能力を約35%削減します。これにより当社のCRTガラス生産能力は最大であった2004年と比較し、約50%の削減となります。

当社のCRTガラス事業は、シンガポール、タイ、中国、韓国において、パネル及びファンネルを生産する体制となりますが、今後も生産体制を再編するなど、必要な対応を継続していきます。

なお、今回の製造窯の一部停止に伴い、2006年度第2四半期に特別損失が約100億円発生する見込みです。

以上

本件に関するお問合わせ先：旭硝子(株)広報・IR室長 川上 真一

（担当：斎藤 TEL:03-3218-5509、Email:info-pr@agc.co.jp）

<ご参考>

1. 会社概要

(1) ビデオ・ディスプレイ・グラス・インドネシア社

- イ.所在地 インドネシア 西ジャワ プカシ
- ロ.代表者 早川 方知
- ハ.資本金 55百万USドル
- ニ.出資比率 旭硝子95%、その他5%
- ホ.生産品目 CRTガラス(ファンネル)

(2) パシフィックグラス社

- イ.所在地 台湾 桃園市
- ロ.代表者 尾下 幸博
- ハ.資本金 1,474百万台湾ドル
- ニ.出資比率 旭硝子100%
- ホ.生産品目 CRTガラス(パネル)

2. CRTガラスの構成

CRTガラスは、画面が映し出される前面の「パネル」、その背後のじょうご型をした「ファンネル」及び電子銃を収納する「ネックチューブ」の3部品から構成されています。

